

廃棄物・資源循環分野における脱炭素化に向けた検討状況

1 目的

2050 年カーボンニュートラルを目指すにあたり、本市の廃棄物・資源循環分野における脱炭素化に向けて中長期的に取り組むべき対策を議論・検討し、現状の対策や現行プランにおいて足りない視点や強化すべき対策等を明らかにするとともに、今後の対策やプランの中間見直し（令和 7 年度末改定予定。施設整備計画を含む。）に反映させる。

2 解析枠組と進捗状況

議論及び検討に当たって定量評価するため、京都市、京都大学及び京都高度技術研究所において、3R リニューアル方策（発生抑制施策や再資源化施策）によるごみ量及び GHG 排出量への影響を反映できる解析モデルを作成する。

GHG 解析に当たっては、焼却部門（非エネルギー起源）だけでなく、モノの製造段階、運送段階等の上流分野での間接的な削減効果も対象範囲とする。

＜解析の流れ＞

- ① ごみの発生量（市受入量＋民間リサイクル量）とその組成の設定
⇒「京・資源めぐるプラン」での基準年 2019 年度を基準として設定【済】
- ② 発生抑制施策・再資源化施策によるごみ量及び GHG の削減原単位を作成
⇒まずは家庭系を優先的に作成【着手中】
- ③ 2050 年の対策シナリオの設定
 - ・前段として現行プランの目標年 2030 年度までの施策を解析モデルへ反映【着手中】
 - ・2030 年度までの施策をもとに 2050 年までの施策を検討【着手中】
 - ・処理施設についても施設更新シナリオや最新技術を考慮【着手中】⇒2050 年までの対策（施策及び施設）を複数シナリオ検討【未】

3 部会での議論

2050 年カーボンニュートラルの実現に向けての部会での議論については、京都市、京都大学及び京都高度技術研究所で 2050 年までの対策と複数シナリオを一定整理したうえで、プラン見直しの議論（次々回以降）の中で、それを題材に議論いただく予定。